



低炭素杯

2019 報告書

Low Carbon Challenge Cup Report



低炭素杯 とは？

「低炭素杯」は、次世代に向けた低炭素社会の構築を目指し、多様な主体が取り組む、地球温暖化防止に関する活動を発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、平成22年度から開催しています。

9回目を迎える低炭素杯2019は、ダイレクトエントリーと地域大会（7地域大会）の計1,425団体の中から選ばれた28団体がステージ上のプレゼンテーション審査に臨み、環境大臣賞や文部科学大臣賞などの各賞を決定いたしました。

開催にあたっては本事業に賛同していただいた企業・団体の皆様からのご支援・ご協力をいただきました。

目 次

低炭素杯 とは	2
低炭素杯2019 挨拶	3
開催概要／委員のご紹介	5
エントリー募集から「低炭素杯2019」開催までの流れ	6
ファイナリスト28団体	7
開催プログラム	8
ステージプログラム：基調講演	10
表彰式	11
受賞者一覧	12
ファイナリスト紹介	15
第11回川崎国際環境技術展とコラボ開催！	38
ファイナリストの声	39
来場者の声	40
ゲスト審査員の声	41
広報掲載一覧	42
ご協力いただいたみなさまのご紹介	44
寄付の報告	45
これまでの環境大臣賞グランプリ受賞団体	46
低炭素杯2019を振りかえる	47



低炭素杯2019 挨拶



低炭素杯実行委員会委員長

小宮山 宏

皆さん!「低炭素杯2019」のファイナルステージに、ようこそお越し下さいました。

低炭素杯実行委員長の小宮山宏です。

昨年、皆さんも実感したでしょうか。日本における夏の猛暑をはじめ世界的な異常気象、地球規模での気候変動など、私たちが身をもって体験するところまで来たのでしょうね。

昨年12月にポーランドで開催された「COP24」では、2015年に採択されたパリ協定実施に向け、確固たるガイドラインが改めて採択されました。今後はこの日本でも、持続可能な「脱炭素」に向けた動きが、早急に必要でしょう。

こうしたグローバルな視点からも、この低炭素杯を、ぜひ、しっかりとご覧になってください。

今日は、日本各地で、地球温暖化防止やCO₂削減などにむけて取組む、学生、市民、企業、自治体、そして小学生や中学生などが、自慢の取り組みを携えて、ここ川崎の地に集合しています。こうした個々の力が集結すれば、それこそ地球規模での温暖化防止に寄与することでしょう。

今日の晴れの舞台に立つ数々の取組、取組む人たちの姿を、会場にいらっしゃる皆さんも、ぜひ目に、そして記憶に焼き付けていってください。

それでは皆さん、「低炭素杯2019」スタートです!

2019年2月8日



低炭素杯2019 挨拶

環境省地球環境審議官

高橋 康夫



環境省地球環境審議官の高橋康夫でございます。

「低炭素杯2019」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて9回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国1,425もの団体からの参加をいただきました。

本日は、その中から、選りすぐりの28の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されました。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

さて、昨年の夏には日本で、世界各地で酷暑や豪雨などの異常気象による被害が発生するなど、地球温暖化の影響が益々懸念される状態になってきていますが、昨年、12月にCOP24がポーランドで開催され、2015年に採択されたパリ協定を実施に移すための行動指針が採択されました。今後は、国家間交渉から協定の確実な実施へと、気候変動対策が転換していくことになります。

世の中を脱炭素型・持続可能型にシフトさせていくためには、国、地方公共団体、事業者、NPOなどあらゆる関係者の連携が不可欠であり、さらには、国民一人ひとりの意識改革が不可欠な状況であります。

そのためには、私たち一人ひとりが、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「ライフスタイル」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけ、脱炭素社会を目指して地球温暖化対策を一層進めていく必要があります。

本日、この場に集(つど)われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地元の皆様に地球温暖化対策の取組の自発的な行動を促していただき、地球温暖化防止活動の輪を一段と拡げていってくださいことを、心より御期待申し上げております。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山先生はじめ実行委員の皆様、貴重なアドバイスを頂いた審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、最後に大変ご多忙の中基調講演を引き受けた五箇先生に厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2019年2月8日

文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官 塩見 みづ枝



低炭素杯2019表彰式に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、各賞を受賞される皆様、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

改めて申し上げるまでもなく、現在、地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は一層高まっております。「人生100年時代」を迎えようとする我が国において、幼少期から高齢期までの生涯にわたり、一人ひとりが持続可能な社会づくりの意識を高めるとともに、学校や企業、地域での活動等を通じて、課題解決のために具体的に取り組むことが、一層重要になると考えます。

文部科学省としましても、学校における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進をはじめ、ライフステージに応じた環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「低炭素杯」は、地球温暖化防止に関する優れた取組やノウハウを全国に広げていくとともに、プレゼンテーションや資料展示等を通じて、互いに学び合うことにより持続可能な社会の構築に繋がる、大変素晴らしい取組と考えております。

本日お集まりの皆様におかれましては、これまで培ってこられた多くの経験や知見を活かし、益々御活躍くださいますよう、さらには、地球温暖化防止に関わる活動がより継続的・持続的なものとなるよう、今後の人材育成にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、低炭素杯2019の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

2019年2月8日



開催概要

日 程 2019年(平成31年)2月8日(金) 10:00～16:30(9:30開場)

会 場 カルツツかわさき(神奈川県川崎市川崎区富士見1-1-4)

入 場 料 無料(事前登録制)

主 催 低炭素杯実行委員会／委員長:小宮山 宏(株式会社三菱総合研究所理事長)

共 催 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(以下「全国ネット」)、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

特 別 協 賛 ユニ・チャーム株式会社、株式会社ニトリホールディングス

協 賛 一般社団法人日本WPA、日本マクドナルド株式会社、株式会社LIXIL
公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団、レンゴー株式会社、株式会社タカラトミー¹
チェックフィールド株式会社、脱炭素化支援株式会社、一般社団法人ZEH推進協議会

協 力 株式会社オルタナ、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、木原木材店(北はりま小径木加工センター)
こどもエコクラブ、ファインモータースクール、第11回川崎国際環境技術展

後 援 環境省、文部科学省、プラチナ構想ネットワーク

事 務 局 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

入 場 者 数 約800名

委員のご紹介

実行委員会

(順不同、敬称略)

委 員 長 小宮山 宏 : 株式会社三菱総合研究所 理事長

副 委 員 長 川北 秀人 : IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者/CEO

岩谷 忠幸 : NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長

委 員 星 効 : 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 理事/事務局長

藤枝 智昭 : 全国地方新聞社連合会 副会長

磯辺 信治 : 環境省地球環境局地球温暖化対策課 国民生活対策室長

長谷川 公一 : 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長

審査委員会

委 員 長 岩谷 忠幸 : NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長

副 委 員 長 堅達 京子 : 株式会社NHKエンタープライズ 制作本部 情報文化番組 エグゼクティブ・プロデューサー

委 員 明石 修 : 武蔵野大学工学部環境システム学科 准教授

石村 令子 : ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 環境推進グループ マネージャー

小川 勇造 : 一般社団法人日本WPA 事務局長

小野 弘人 : 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業 マネージャー

尾山 優子 : 一般社団法人環境パートナーシップ会議 理事/事務局長

佐藤 孝治 : 公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長

高林 慎享 : 株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長

東井 芳隆 : 株式会社ニトリホールディングス 上席執行役員 社長室長 兼 広報部長

桃井 貴子 : 認定NPO法人気候ネットワーク 東京事務所長

森 摂 : 株式会社オルタナ 代表取締役/編集長

エントリー募集から「低炭素杯2019」開催までの流れ



低炭素社会づくり活動や地球温暖化防止に取り組む、学校、企業、自治体、NPO団体など

どちらへも応募可

2018年7月20日(金)～9月10日(月)

ダイレクトエントリー 104件

※1 事務局の募集窓口へ直接応募する

地域大会 エントリー 1,321件

※全国で開催されている温暖化防止や環境に関わる表彰大会で低炭素杯地域大会として認定された大会に参加した団体の中から、各地域温暖化防止活動推進センターが然るべき審査基準によって選定

2018年10月上旬～11月中旬

書類審査

※審査委員による書類採点期間を経て、審査委員会にてファイナリストを選定

推進7団体



ファイナリストの皆さん
こちら!

2018年11月中旬

実行委員会 開催

ファイナリスト28団体決定!

※ジュニア・キッズ6団体、学生6団体、市民8団体、企業・自治体8団体

奨励賞団体決定

2019年2月8日(金)

低炭素杯2019 プrezentation審査

※「低炭素杯2019」の舞台で活動をプレゼンテーション発表することで審査を行い、各賞を決定

奨励賞団体とは？

低炭素杯2019では、エントリー団体の中から、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体に対し、「奨励賞」をお贈りしています。今年度は、以下の 奨励賞受賞31団体に対し、2018年11月に表彰状を贈りました。

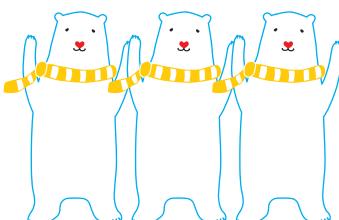
都道府県	団体名称
東京都	NPO法人新宿環境活動ネット
群馬県	一般社団法人中央ライフ・サポートセンター(CLSC)
静岡県	沼津市自治会連合会
香川県	大野豆プロジェクト
岡山県	特定非営利活動法人 co2sos
東京都	株式会社環境経営総合研究所
栃木県	有限会社ナベ企画
茨城県	株式会社エコツー技術研究所
東京都	有限会社三幸電機製作所
栃木県	株式会社ツルオカ
神奈川県	一般社団法人床ワックスをリサイクルする会
岡山県	エーゼロ株式会社
東京都	森とアースへのECO-プロジェクト 推進チーム
神奈川県	株式会社太陽住建
東京都	SGリアルティ株式会社

都道府県	団体名称
滋賀県	AINZ株式会社
長崎県	鈴田峠農園有限会社
新潟県	長岡市繁窪区
大分県	大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜
神奈川県	神奈川県立中央農業高等学校養豚部
長野県	エクセラン高等学校環境科学コース
岡山県	山陽女子中学校・高等学校 地歴部
栃木県	宇都宮大学建築環境研究室
東京都	多摩美術大学 涼都 2020 チーム
岐阜県	岐阜県立岐阜工業高等学校 化学研究部
徳島県	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
和歌山県	橋本市立あやの台小学校 エコマート
大阪府	八尾市立曙川小学校
新潟県	三条市立大島中学校
沖縄県	中原エコ・リサーチクラブ
東京都	港区立港南中学校

ファイナリスト28団体(プレゼンテーション順)

	都道府県	団体名称	取組名
学生部門 (6団体)	1 鹿児島県	鹿児島県立 鶴翔高等学校	廃棄物のリサイクルで循環型農業～SDGs持続可能な発展～
	2 新潟県	佐渡総合高校GIAHSプロジェクト	広げよう! 朱鷺舞う佐渡の環境を!地域密着環境啓発プロジェクト
	3 徳島県	阿南高専 再生可能エネルギー研究会	海洋波力発電装置開発による離島振興と再エネ事業創出
	4 広島県	広島市エグリーン・プロジェクト	高校生による地球温暖化対策エコ・アクション
	5 宮城県	宮城県農業高等学校	産業廃棄物の杉樹皮を利用した炭素農業の構築と商品化
	6 茨城県	常磐大学松原哲哉ゼミナル	またお前らか?泥だらけでCO ₂ 削減 TOKIWA DORO 隊
ジュニア・キッズ部門 (6団体)	7 兵庫県	尼崎市立成良中学校	命のつながりをつくり育む環境教育
	8 京都府	京都市立朱雀第四小学校	持続可能な未来の環境を考えるあかしや環境学習
	9 佐賀県	佐賀大学教育学部附属特別支援学校「team! 緑の風吹く」	地球の向こうが見える小、中、高、みんなで取り組む緑化活動
	10 岩手県	盛岡市立下橋中学校	環境を見つめながら、主体的に行動する生徒の育成
	11 東京都	品川区立山中小学校おやこエコクラブ	おやこエコクラブ
	12 香川県	三豊市立麻小学校	地球を守れ! 環境防えい隊
市民部門 (8団体)	13 東京都	NPO法人工ヌピーオー・フュージョン長池	「公園の利活用×地域協働」による低炭素社会実現への取り組み
	14 東京都	日本生活協同組合連合会	野心的な目標提起と丁寧な会員支援で、脱炭素化の取り組みを加速
	15 秋田県	NPO法人秋田パドラーズ	ゴミを拾う人はごみを捨てない。自然環境を守るのは貴方だ!!
	16 三重県	一般社団法人海っ子の森	海の森を未来に届けるプロジェクト～海の資源を無駄なく使う～
	17 神奈川県	NPO法人WE21ジャパン	WEショップ(リサイクルショップ)を通じた資源循環活動
	18 静岡県	沼津工業高等専門学校と静岡県立工業高等学校の共同研究委員会	化石燃料に頼らない水素社会実現へ向けた実践的な環境教育
	19 大分県	姫島エコツーリズム推進協議会	「エコアイランド」と「地域活性化」を目指した超小型EVの活用
	20 山形県	みちのく屋台こんにゃく道場	やまとた「生ごみやさいくる」で就労支援
企業・自治体部門 (8団体)	21 和歌山県	有田川町	有田川エコプロジェクト～循環型で持続可能なエコのまちづくり～
	22 神奈川県	株式会社大川印刷	「CO ₂ ゼロ印刷」による脱炭素化の推進
	23 東京都	羽村市	AZEMSプロジェクト
	24 福井県	もりもりバイオマス株式会社	地域で自立する民間木質バイオマス熱供給事業
	25 大阪府	コクヨ株式会社	環境と経済の好循環を目指して～結の森プロジェクト～
	26 神奈川県	富士通株式会社 川崎工場	富士通グループ環境教育プログラム
	27 滋賀県	草津電機株式会社	高い付加価値を持つ高効率モータの開発
	28 鳥取県	株式会社エナテクスファーム	再生可能エネルギーを活用して地方から新産業を日本・世界に発信

ドキドキの発表!





開催プログラム

10:00～10:12(受付開始 9:30)

開会

■ 開会の挨拶

低炭素杯実行委員会 委員長 小宮山 宏

■ ファイナリスト紹介

■ 審査委員紹介



10:12～13:00

ファイナリスト28団体による プレゼンテーション発表

(発表時間 1団体4分)

10:12 学生部門(6団体)

ジュニア・キッズ部門(6団体)

休憩(10分)

11:12 市民部門(8団体)

休憩(10分)

12:12 企業・自治体部門(8団体)

12:52 午後プログラムのアナウンス



13:30～15:00

ステージプログラム

教えて五箇先生！

「地球温暖化による生物リスク」

■ 講演者

五箇 公一さん

国立環境研究所

生態リスク評価・対策研究室室長



15:20～16:30

表彰式・閉会

■ 主催者挨拶

低炭素杯実行委員会

副委員長 川北 秀人

■ 審査結果発表

■ 閉会の挨拶

低炭素杯審査委員会

委員長 岩谷 忠幸





受付・ホワイエの様子

会場受付では、トロフィーの展示及び、ファイナリストの資料、共催・協賛企業/団体のご紹介コーナーなど、様々な展示コーナーを設けました。



毎年恒例！ペーパーウェイト 提供：木原木材店様より

トロフィーができるまでの紹介ムービー

今年も人気のフォトコーナー登場

ポスター展示(9:30~16:30)

ホワイエ会場にて、ファイナリストの活動紹介のポスター掲示や、団体のパンフレットを配布するコーナーを設置しました。



ステージプログラム：基調講演(13:30~15:00)



講演者 五箇 公一さん

国立環境研究所
生態リスク評価・対策研究室室長

教えて五箇先生！ 「地球温暖化による生物リスク」



1990年京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了、同年、宇部興産株式会社農薬研究部入社。
1996年：京都大学博士号(論文博士)取得(農学)。同年：国立環境研究所入所、現在に至る。
専門は保全生態学、農薬科学。主な著書に「クワガタムシが語る生物多様性(集英社)」、「終わりなき侵略者との闘い～増え続ける外来生物～(小学館)」など。テレビや新聞等マスコミを通じて生物多様性・生態リスクの啓発にもつとめる。



五箇先生がご登場！



生物多様の大切さについて、解かり易く、講演をして頂きました。五箇先生のお話に引き込まれてしまいました。質問コーナーでは、学生からも沢山の質問があり、五箇先生との貴重な交流となりました。



交流会(17:30~19:00)

表彰式終了後にファイナリストや、委員の皆様、ご協力いただいている企業/団体の皆様、地域地球温暖化防止活動推進センター職員などの、低炭素杯に係わる方々にご参加いただき、交流会を開催いたしました。団体等の垣根を越えて、様々な情報交換などを行うことにより交流を深め合いました。



一般アンバサダーをご紹介！

なんと！五箇先生も出席



低炭素杯2019 表彰式



ファイナリストによるプレゼンテーション発表後に開催された審査委員会において、低炭素杯2019の受賞団体を決定しました。

表彰式では、環境大臣賞グランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)の受賞団体が発表され、高橋康夫環境省地球環境審議官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

また、文部科学大臣賞(社会活動分野、学校活動分野から各1団体、計2団体)では、塩見みづ枝文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官より各受賞団体に賞状とトロフィー等が授与されました。

企業/団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞団体(8団体)へ、審査委員特別賞は岩谷審査委員長から受賞団体(1団体)へ、オーディエンス賞は小宮山実行委員長から受賞団体(2団体)へ賞状等が授与されました。

環境大臣賞トロフィー



第1回低炭素杯から風倒木や朽木を利用した独創的な環境大臣賞トロフィーを制作いただいている齊藤公太郎さん。

木々と暮らす中で地球温暖化を実感し、低炭素杯を応援する想いをトロフィーとして創り上げてくださっています。

今年は、「高尾の森自然学校の間伐採を使ってトロフィーを作ろう!」というイベントから素材が提供され、トロフィーの素材として用いられました。

文部科学大臣賞トロフィー



低炭素杯2016より、文部科学大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。

須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、薪窯で1,350度の高温でじっくりと焼きあげる焼締めの手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。

夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーからは、低炭素杯に相応しい風格と強いメッセージが伝わります。



▶ 低炭素杯2019 受賞者一覧



環境大臣賞 グランプリ



姫島エコツーリズム推進協議会



環境大臣賞 金賞 学生部門



鹿児島県立 鶴翔高等学校

環境大臣賞 金賞 ジュニア・キッズ部門



尼崎市立成良中学校

環境大臣賞 金賞 市民部門



みちのく屋台こんにゃく道場

環境大臣賞 金賞 企業・自治体部門



有田川町



文部科学大臣賞 社会活動分野



宮城県農業高等学校

文部科学大臣賞 学校活動分野



佐賀大学教育学部附属特別支援学校「team!緑の風吹く」

セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞



阿南高専 再生可能
エネルギー研究会

ユニ・チャーム 最優秀エコチャーミング賞



広島市エグリーン・
プロジェクト

ニトリ 最優秀 夢・未来賞



盛岡市立下橋中学校

日本WPA 最優秀未来へのはばたき賞



佐渡総合高校
GIAHSプロジェクト

損保ジャパン日本興亜環境財団 最優秀わくわく未来賞



NPO法人工ヌピーオー・
フュージョン長池

タカラトミー 最優秀次世代賞



品川区立山中小学学校
おやこエコクラブ



低炭素杯2019 受賞者一覧

オルタナ 最優秀ストーリー賞



株式会社エナテクスファーム

気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞



一般社団法人海っ子の森

審査委員特別賞



株式会社大川印刷

マクドナルドオーディエンス賞



常磐大学松原哲哉ゼミナール



宮城県農業高等学校



優秀賞

ファイナリストに選ばれたことを称賛し、実行委員会から以下の皆様へ優秀賞を贈呈いたしました。

- ・京都市立朱雀第四小学校
- ・三豊市立麻小学校
- ・日本生活協同組合連合会
- ・NPO法人秋田パドラーズ
- ・NPO法人WE21ジャパン
- ・沼津工業高等専門学校と
静岡県立工業高等学校の共同研究委員会
- ・羽村市
- ・もりもりバイオマス株式会社
- ・コクヨ株式会社
- ・富士通株式会社 川崎工場
- ・草津電機株式会社



優秀賞盾



ファイナリスト紹介



環境大臣賞 グランプリ

「エコアイランド」と「地域活性化」を目指した 超小型EVの活用

姫島エコツーリズム推進協議会

〒872-1501 大分県東国東郡姫島村2069

☎ 0979-53-8880 <http://himeshima.tplan0301.com/>



二次交通の無い姫島において、仕事や観光で訪れる来島者が気軽にエコで島内を移動出来るよう超小型電気自動車の貸出しを行い、地元の島民や事業者にとってもエコで新たな移動手段となるような利用実証を行っています。また青パパイヤの栽培を通して二酸化炭素の吸収と特產品づくりにも挑戦、今年度からは太陽光発電による電力で超小型電気自動車の充電と事務所の電気を補い、エネルギーの地産地消に取り組んでいます。



審査コメント

二次交通という大きな社会課題があるなか、低炭素社会（エコアイランド）だけでなく、「地域活性化」も併せて目指している点は高く評価できます。超小型電気自動車（EV）の燃料を太陽光発電にこだわった「エネルギーの地産地消」、さらには「高齢化」の社会課題まで包括的に考えて取り組んでいる点は非常に素晴らしいと思います。活動年数はまだ短いものの、同じような課題を抱えている地域が多いため、持続可能な地域づくりのモデルケースになりうると思われ、まさにグランプリにふさわしい取り組みだと思います。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は大変名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。超小型EVを活用した取組を始めた頃は地元でもあまり関心や理解を持ってもらはず小さな活動でした。それでも地域の課題解決、低炭素社会づくり、そして地域活性化のために試行錯誤しながら続けている内に、今ではたくさんの方々の応援や支援をいただける取組みとなり、1ターンスタッフの採用や環境大臣賞グランプリまでいただき、スタッフ及び地域に元気をもたらす事も出来ました。この取組みは今後も継続して行くことが大切であり、これからも地域全体で低炭素社会づくりを通して地域活性化に頑張っていきますので、応援のほどよろしくお願ひいたします。



▶ ファイナリスト紹介

◐ 学生部門 環境大臣賞 金賞(学生部門)

廃棄ウニのリサイクルで循環型農業 ～SDGs持続可能な発展へ～

鹿児島県立 鶴翔高等学校

〒899-1611 鹿児島県阿久根市阿久根川1800

☎ 0996-72-7310 <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kakusho/>



地域の課題である磯焼け対策の廃棄ウニをリサイクルし、減化学肥料で農作物の増収と糖度向上を実現する技術開発で社会貢献活動に取り組んでいます。CO₂排出量を抑えた循環型農業で学校水田では生物多様性が確認され、同時にメロンの糖度向上やコメ農家の圃場でも収量増加が確認できました。SDGsの持続可能な生産を目指し、地球温暖化対策や環境教育で啓発活動を行うために、近隣の小中学校に出前授業を行っています。



審査コメント

地域の課題であった「廃棄ウニ」をリサイクルする技術を確立したこと自体が素晴らしいのですが、それだけでなく、農作物への効果実証やブランド化まで考えて活動している点は非常に高く評価できます。また、漁業と農業の連携によるゼロエミッションがSDGsの視点としても素晴らしい、また、何より学校でありながら、地域とよく連携している点も評価できました。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

周りの方々の発表がとても良くて、本校の受賞はないものと思っており、環境大臣賞金賞をいただき本当に嬉しかったです。

プレゼンでは、まず鹿児島の鶴翔高校で私たち高校生がウニの発酵液を使うことによる地域貢献活動を継続していることを紹介することで、低炭素社会を実現する大切さを伝えたかったです。西郷どん・大久保どんの衣装で維新150周年のアピールも行いました。鹿児島の歴史的な文化と現在行われている活動内容をリンクさせインパクトと楽しい発表を心がけました。発表時間が短かったので内容がよく伝わるように重要な所だけに絞り込んで発表しました。貴重な体験をさせていただいて本当にありがとうございます。



 ジュニア・キッズ部門

環境大臣賞 金賞(ジュニア・キッズ部門)

命のつながりをつくり育む環境教育

尼崎市立成良中学校

〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目33-22
☎ 06-6482-3081 www.ama-net.ed.jp/school/j01



工業を中心として発展し、これまで公害問題と向き合ってきた尼崎の街の歴史を背景に、「形は変わりつつも命はつながり続ける循環」をテーマとした活動を続けている。兵庫県、尼崎市、徳島大学、地域の企業や団体、市民との連携や協働しながら尼崎の海や運河の水質浄化、環境美化、森づくり、野生生物保護につながる活動を行い、生徒が主体となって自分たちの地域を美しく住みよい街へと生まれ変わらせようとしている。



審査コメント

高度経済成長時代の公害から、いまは気候変動の影響を最小限にするための低炭素社会へと、時代とともに社会課題も変わってきていますが、そうしたなか、長期的に循環型社会を目指し、中学生が自ら、主体的に幅広い活動を行っている点は高く評価できます。ワカメ→堆肥→菜の花→菜種油→BDFまでの循環を総合的に考え、行政や大学、地域とも連携しながら推進している点は素晴らしい、非常に高く評価できます。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

20年前にたった2人の生徒と一人の教師が始めた巣箱づくりと観察活動が、命の尊さとそのつながりの大切さを伝え、自分たちの生きる地域環境を自分たちの手で良くしていくこうという教育活動に発展しました。今では多くの人々との協働で充実した環境教育が行えるようになりました。今回の受賞に際して、これまでともに取り組んできた卒業生、地域の方々、地元企業、行政機関、大学や専門家の先生方から温かいお祝いの言葉をいただきました。この素晴らしい仲間たちとこれからも「形は変わりつつも命はつながり続ける循環」について共に考えながら、命あるものが末永く共生し合える環境づくりに取り組んでいこうと思います。



▶ ファイナリスト紹介



環境大臣賞 金賞(市民部門)

やまがた「生ごみやさいくる」で就労支援

みちのく屋台こんにゃく道場

〒990-2494 山形県山形市末広町2-6

☎ 023-673-9494 <http://www.facebook.com/npomichinoku/>



この「やまがた生ごみやさいくる」事業とは、すばり、やさいとリサイクルを掛け合わせた造語ですが、言葉通り、市民の方が持ち寄った家庭から出た生ごみを肥料で、野菜のリサイクルを行う取り組みになっています。市民の方は集めた乾燥生ごみでポイントをため、新鮮野菜と交換でき、山形市は燃やせる生ごみの軽減で節税につながり、私たち事業所は、その野菜で地域と結びつきながら障がい者の自立と就労支援をつなげています。



審査コメント

第一に「やさいくる」というネーミングが良いです。家庭から出る生ごみは非常に多いですが、これを堆肥にし、野菜を育てることで循環型社会につなげています。実績として800世帯以上が参加し、生ごみが10%削減できた効果は大きいと思います。ゴミが削減できれば、焼却するエネルギーも、その費用も削減でき、低炭素社会の実現とともに、社会福祉の広い視点での活動も行われており、高く評価できます。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞金賞市民部門の受賞にあたり、私たちを応援して下さった全国の皆様方に深く感謝申し上げます。私たち障がい者の就労支援事業所が、ともに生活する市民の方々と一緒に共生社会の実現を図りながら、生ごみの循環と資源の有効活用を通した活動が評価されたことを大変嬉しく思っています。この事業を更に充実させ、障がいの方々の更なる社会参加と工賃向上につなげていきたいと思います!



企業・自治体部門

環境大臣賞 金賞(企業・自治体部門)

有田川エコプロジェクト ～循環型で持続可能なエコのまちづくり～

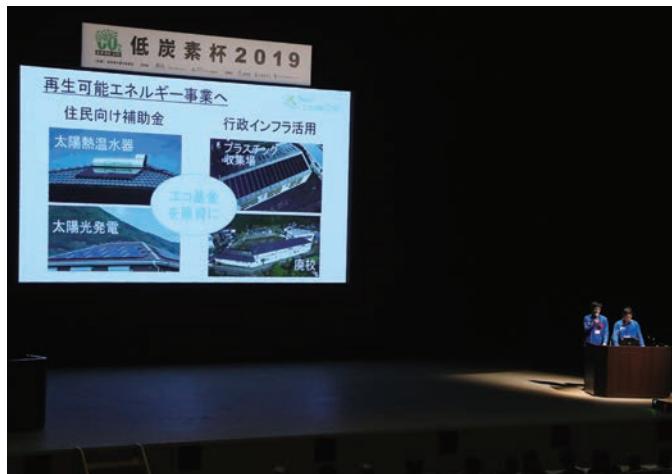
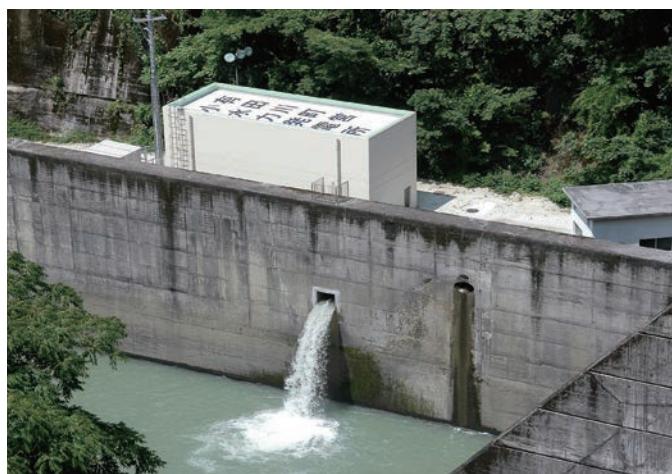
有田川町

〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町大字下津野2018番地4

☎ 0737-52-2111 <http://www.town.aridagawa.lg.jp/kurashi/seikatsu/22858.html>



有田川町では、ごみ減量と再生可能エネルギー導入促進の両輪でエコなまちづくりに取り組んでいる。特筆すべき点は、資源ごみ収集運搬処理業務が年210万円の収入になっていることや、年間約5,000万円を稼ぎ出す小水力発電所の取り組みなど、地球にエコロジーでありながら地域経済にもエコノミーである点である。イメージだけでなく、経済性も兼ね備えていることから循環型かつ持続可能な取り組みである。



審査コメント

低炭素社会のキーワードとして、「ごみ減量」と「再生可能エネルギーの推進」は高い効果が期待できる分野です。ゴミ削減による余剰費用を基金にして、町営で小水力発電などを運営するなど地産地消のエネルギーに投資をしている点は素晴らしい事例です。行政ではあるが、26年という長期的な活動を行っており、その効果も出ており、全国の自治体に広がることを期待したいと思います。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

このたびは名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。「有田川エコプロジェクト」は、全住民が取り組むごみの分別と資源化を起点とし、町営小水力発電所建設など再生可能エネルギー事業とあわせて持続可能な循環型社会を目指すまちづくりです。私たちの生活とは切り離せない「ごみ」と「エネルギー」について地域一体となって取り組む活動が評価され、大変うれしく思います。低炭素杯では地球温暖化防止に向けたさまざまな取り組みを知ることができ、これからもなお一層エコで魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。最後に、素晴らしいコンテストを開催してくださった低炭素杯2019の関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。



ファイナリスト紹介

学生部門

文部科学大臣賞(社会活動分野)/マクドナルドオーディエンス賞

産業廃棄物の杉樹皮を利用した炭素農業の構築と商品化

宮城県農業高等学校

〒981-1242 宮城県名取市高館吉田字吉合66番地

022-384-2511 <https://miyanou.myswan.ed.jp>



マクドナルドオーディエンス賞

ハンバーガー1年分



県内2774haの宮城スギの間伐を行うと大量の樹皮が生じ産業廃棄物扱いされていた。油分が多く堆肥化に4年の歳月がかかり課題だった。そこで、杉樹皮を微生物の力や廃液等を利用して1年以内の堆肥化を目指した。農作物への生育試験を行うと2倍の根量と4倍の生育を確保した。楽天球団と連携して球場内で生育試験を行い、収穫物は球場内で販売し、啓発活動も行った。堆肥は地元企業と連携して商品化した。



審査コメント

産業廃棄物となっていたスギの樹皮を、短い年月で堆肥化する技術を開発し、農作物の生育への効果を実証していく、堆肥は地元企業と協力して商品化まで進めています。技術の確立ももちろん素晴らしいのですが、それにとどまらず、プロ野球の球団とも連携し、一般市民へ普及啓発を行っている点が高く評価できます。

——審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

前に会場入りすると自分の想像よりも広くて人が多くてとても緊張しました。本番前も緊張でお腹が痛くて3回くらい往復でトイレに行きました(笑)でも本番、あの場所に立った途端緊張は吹き飛んで私達ならいけるという自信に満ち溢れ発表する事が出来ました。確かに人は多かったですが3人で練習した努力は無駄じゃなかったし、成果などが認められたからこそ文部科学大臣賞という素晴らしい賞を頂くことが出来たんだと実感しています。他の発表も聞いて学んだことや驚いたことが様々でした。五箇公一さんの話でワガタの幼虫は窒素を作り出すとは知らなかつたですし、私達の研究の更なる発展に使えると思いました。またカヌーの所は自分達の好きなカヌーで大切な自然を整えると言った発想の違いと凄さ、行動力を学ぶことが出来ました。低炭素杯に参加して教えてもらったことなどは私のこれから糧になると思います。低炭素杯に参加して良かったです。ありがとうございました!



 ジュニア・キッズ部門

文部科学大臣賞(学校活動分野)

地球の向こうが見える 小、中、高、みんなで取り組む緑化活動

佐賀大学教育学部附属特別支援学校「team!緑の風吹く」

〒840-0026 佐賀県佐賀市本庄町大字正里46-2

☎ 0952-29-9676 <http://www.yougo.pd.saga-u.ac.jp>



平成20年から始めたグリーンカーテン活動、現在では年間を通じた「緑の環境活動」へと発展しました。グリーンカーテンの育成、収穫物を使ったレシピや商品の開発と食育、生ゴミやプールの水の再利用による堆肥作り、カーテン撤去後の蔓を使ったツリー&リースの作成、活動や効果の振り返りと、グリーンカーテンを学習教材として幅広く活用しています。また、採取した種の配布と活動PRを行い、地域への普及を促進しています。



審査コメント

10年以上の活動実績があり、「緑の環境活動」としてグリーンカーテンを軸に、収穫物の商品開発や食育、ごみからのたい肥作りなどを、総合的に教育的な活動を長年にわたって行っていることは大変評価できます。特別支援学校の生徒さんが、教員、保護者など学校全体が一体となって、地域への普及啓発まで実践していることは自立にもつながりますし、素晴らしい取り組みであると思います。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

きっかけは電子機器のサーモエラー対策のために始めたグリーンカーテンへの取組であった。そこから「特別支援学校における環境教育への取組」へとつなげる過程において今回評価をしていただいた。本校としては「特別支援教育における環境教育のあり方についての研究的取組」をテーマとしていたが、まだそれは取り組み始めたばかりで十分なあり方の検証の形までは整ってはいない。今回の「文部科学大臣賞」という評価に恥じないように、これからもこのテーマを継続・発展させ、「特別支援教育における環境教育のあり方」として皆さんにお伝えるすることができるよう、今後も頑張っていきたい。今回の受賞に感謝すると共に、今後の活動の糧としたい。(校長 瀬戸眞樹)



ファイナリスト紹介

学生部門

セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

海洋波力発電装置開発による離島振興と 再エネ事業創出

阿南高専 再生可能エネルギー研究会

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265

☎ 0884-23-7157 <https://www.anan-nct.ac.jp/>

最優秀地域活性化賞

広報誌
「みどりの風」への
記事掲載

一般財団法人
セブン-イレブン記念財団



阿南市と阿南高専が共同研究で海洋エネルギーによる潮流発電と波力発電装置を開発し、徳島県の離島、伊島で実証実験を行なった。再生可能エネルギー研究会の学生は開発設計～部品製作～組立～設置・作動確認に参画して実施した。自治体・事業者レベルでの海洋エネルギー発電の有効性が確認できた。今後は再生可能エネルギー普及の技術確立も進める。



審査コメント

学生が地域住民の理解を得て、地域の企業や阿南市などの行政と連携して、潮流発電と波力発電装置による再生可能エネルギーを開発し、設計から設置まで自ら行うというのは、これから日本の技術革新を感じます。地域のエネルギーは地域で解決するという離島ならではの自然を生かした課題解決方法は海洋国家日本にとって重要で先駆的な実証実験であると思われます。そのような取り組みを四国徳島から全国へ、そして世界に発信していくのは、脱炭素社会に導いてくれる技術であり、今回の評価となりました。

—— 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

“最優秀地域活性化賞”を受賞させていただき、感謝申し上げます。まさに活動目標に合致する賞です。海洋エネルギー発電で小中学生への環境教育の島として離島振興を図り、技術成果で再エネ事業創出を図ることが加速できる受賞です。島民の皆様、阿南市の皆様から祝意をいただきました。学生はこの開発活動により、環境を考えて行動する技術者として成長できました。今後はベンチャーを起業し、再エネ機器展示学習館作りと、東南アジア無電化地域に設置できる機器の実用化を目指してまいります。ありがとうございました。



学生部門

ユニ・チャーム 最優秀エコチャーミング賞

高校生による地球温暖化対策エコ・アクション

広島市工グリーン・プロジェクト

〒734-0025 広島県広島市南区東本浦町1-18

電話 082-282-2216 <http://www.hiroshima-kougyo-h.edu.city.hiroshima.jp/>

最優秀エコチャーミング賞

ユニ・チャームHP内の活動紹介



本校では、高校生による発想に基づき、工業高校で身につけた知識・技術を活用して、試行錯誤しながら環境問題や社会問題の解決に向けた実践的研究を2007年から重ねている。環境負荷軽減の実証に必要とされるこれまでのシステム開発には、上級生の研究により蓄積された技術が下級生へ引き継がれるなど、10年を超えた継続性も成果として挙げられる。



審査コメント

地球環境の現状を学生らしい視点で社会課題解決に臨み、2007年からの持続的な活動を通じて明確な目的や目標を設定「見える化」し、地球温暖化対策のエコ・アクションに展開するために、工業高校で身につけた知識や技術を活用、エコ活動をガマンする活動でなくポジティブな発想に変えて継続的に取り組んでいることを評価し、学生部門からエントリーした広島市立広島工業高等学校広島市工グリーン・プロジェクトの「高校生による地球温暖化対策エコ・アクション」を表彰しました。また、発表会場で行われたプレゼンテーションでは、活動ヒストリーや持続可能な開発目標であるSDGsと活動の関連を示したスライド内容が非常にわかりやすかったこと、そして真摯に取り組む姿が学生らしくチャーミングだったことも評価致しました。

—— ユニ・チャーム株式会社CSR本部 環境推進グループ 石村 令子

受賞者コメント

この度は、ユニ・チャーム最優秀賞エコチャーミング賞をいただくことができ大変喜んでおります。今回のように高く評価して頂けたことで、大きな自信となりました。大会では、様々な活動を知ることができました。地域の特徴を活かした取り組みや、課題を協働して解決に向けて取り組まれた結果、新たな発展をされていることに刺激を受けました。このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝しております。今後、地球環境への負荷を軽減させるポジティブなエコ活動に取り組み、その実践を広く発信していきたいと考えています。さらに、学校におけるSDGs達成に向けて活動していきます。本当にありがとうございました。



ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

ニトリ 最優秀 夢・未来賞

環境を見つめながら、主体的に行動する生徒の育成

盛岡市立下橋中学校

〒020-0876 岩手県盛岡市馬場町1-1

☎ 019-623-4337

最優秀 夢・未来賞

HPへの掲載 及び
その他
広報物への掲載



本校では環境教育での学びを基底におき、さまざまな教育活動とリンクさせるとともに、体験活動を取り入れ、「環境問題に関心を持ち、自ら課題意識を持って取り組める生徒」「環境問題への取り組みを通して豊かな人間性を持つ生徒」を育てることを目指しています。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。盛岡市立下橋中学校は環境教育での学びを規定におき、3年間の環境に触れる体験活動や総合学習を通して「環境問題に関心を持ち、自ら課題意識をもって取り組める生徒」「環境問題への取り組みを通して豊かな人間性を持つ生徒」を育てることを目指しておられました。生徒の皆様が主体的に考えて行動する力を備えることで卒業した後も良い未来へつながっていく可能性を大きく感じさせる素晴らしい内容でした。この取り組みが、岩手から全国へ、そして世界へより発展的に継続していくことを期待しております。

—— 株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

このたびは、私たち下橋中学校の取り組みを評価していただきありがとうございました。本校では継続して行っている室根山の植樹をはじめ、20年以上前から環境教育を柱として活動してきました。また、普段でもエコ学習会やブルキナファソ支援活動などを積極的に行ってています。小さなことでも継続していくことで地球の環境を守るということを、低炭素杯に参加して確信いたしました。そして、参加されていた皆さんから学んだことを参考に今後の活動の充実を図っていきたいと思います。



学生部門

日本WPA 最優秀未来へのはばたき賞

広げよう!朱鷺舞う佐渡の環境を!地域密着環境啓発プロジェクト

佐渡総合高校GIAHSプロジェクト

〒952-0202 新潟県佐渡市栗野江377番地1

電話 0259-66-3158 <http://www.sadosou-h.nein.ed.jp/>

日本WPA最優秀未来へのはばたき賞

日本WPA HP特設ページでの紹介及びオリジナル特製盾の贈呈



学習者の写真を入力したなし印刷の原稿を店にします。写真は2018年度受賞者

佐渡市では野生復帰した朱鷺を守るため、島ぐるみで環境に配慮した農業に取り組んでいます。これが世界農業遺産(GIAHS)に認定され、私たちはこの農業と、環境の関わりを伝える普及啓発を行っています。GIAHSってなに?と題した大人向けの発表から、子どもたちへの出前授業、地域交流を通じ、商品開発、農作物PR、農業ボランティアに取り組んでいます。佐渡の農業が持つ環境価値を様々な視点で発信しています。



審査コメント

野生の朱鷺を守ることが、低炭素社会実現に繋がることが驚きであった。生物多様性の保護、温室効果ガス削減に効果のある農業に注目し、離農対策、耕作放棄地対策を包括した持続的な活動が素晴らしい。地域連携や情報発信に積極的に取り組み島ぐるみの活動に発展させ、その貢献度、波及効果は特筆すべきものである。小学生向けの出前授業や食育活動などにも取り組んでいる総合的な活動は、未来にはばたく賞ふさわしい活動である。

——一般社団法人日本WPA 事務局長 小川 勇造

受賞者コメント

この度は、日本WPA最優秀未来へのはばたき賞という輝かしい賞をいただくことができ、大変嬉しく思っております。今回の受賞は、日々協力をいただいている地域の皆様のお陰だと思っております。また、賞の名前も「未来へのはばたき賞」ということで、野生絶滅から復帰した朱鷺が、これからの未来へはばたく環境のシンボルになると考えています。佐渡という自然豊かな環境で受け継がれる低炭素な農業と、それにより生産される安全でおいしい農作物の認知度を高め、伝統食の継承も行っています。後世まで朱鷺の棲める環境システムの構築を目指し、私たち高校生が地域の核となって活動を続けていきます。



ファイナリスト紹介



損保ジャパン日本興亜環境財団 最優秀わくわく未来賞

「公園の利活用×地域協働」による低炭素社会実現への取り組み

NPO法人工ヌピーオー・フュージョン長池

〒192-0363 東京都八王子市別所2-5-8 長池公園自然館

042-678-4616 <http://www.pompoco.or.jp/>

最優秀わくわく未来賞

財団主催の
環境講座イベント
ご招待

損保ジャパン日本興亜環境財団



0歳～100歳、子どもから高齢者まで、多世代・多様な人たちが、ユニバーサルに集まる場所が公園です。地域の一人ひとりが、地球温暖化防止活動などを通じた低炭素社会の実現に向けて、自分事として考え、実行に移すことが大切だと私たちは考えます。そのために、公園という開かれた場所を利活用し、地球温暖化防止活動などの取り組みにかかる「仕組み」を構築し、『地域協働による低炭素社会の実現』を目指します。



審査コメント

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来の環境保全につながる取り組みを応援しています。特定非営利活動法人フュージョン長池さんの「0歳～100歳、子どもから高齢者まで、多世代・多様な人たちが、ユニバーサルに集まる公園」の利活用を通じた取り組みは、地域の皆さんにとっての自然保全活動に対する学びの場、実践の場であり、かつ地域全体の環境意識の向上につながるとともに、地域のつながり強化にも結び付く、「公園」という場を最大限に活用した素晴らしい取り組みだと思います。また、新しい技術を積極的に導入されている姿にも感銘を受けました。皆さまの今後の活動に期待しております。

—— 公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 課長 近藤 由美

受賞者コメント

低炭素社会の実現と持続可能な社会を目指すためにも、地域協働による公園の利活用を通じて、「次世代を担う子供たちの育成」というのは、大きな意味があると、私たちは日頃から考え活動させていただいております。そのような中、当団体の取り組みを評価いただき、本当に嬉しく、心より感謝申し上げます。これからも、子どもから大人まで多世代で、多様な人たちと一緒に、ワクワクするような未来を創っていきたいと思います。



ジュニア・キッズ部門

タカラトミー 最優秀次世代賞

おやこエコクラブ

品川区立山中小学校おやこエコクラブ

〒140-0014 東京都品川区大井3-7-19

☎ 03-3772-3006 <http://www.j-ecoclub.jp/ecoreport/profile.php?id=375>

最優秀次世代賞

タカラトミーHP
特設ページ内の紹介と
「最優秀次世代賞」
受賞証贈呈

TAKARA
TOMY
GROUP



市街地に位置した小学校を活動拠点としているため、校舎壁面・屋上緑化を利用した四季折々の野菜栽培、街中の生き物観察、学校周辺地域の美化・緑化、地球環境を考える学習・実験、地域の歴史・文化を学ぶプログラムを行っています。通年での野菜・花の栽培と共に、それらを楽しく学ぶイベントをほぼ毎月開催しています。またPTA活動と連携し、アルミ缶やペットボトルキャップ回収など、リサイクル活動を行っています。



審査コメント

都心に立地する学校が自然や人とのふれあいを通じ、長年に渡り環境活動に取り組んでいます。活動は単発ではなく連鎖しています。例えば、「屋上での野菜栽培」から「野菜を親子で調理する食育」、「給食調理の生ごみをバイオマスにする実験」から「運動会でガスを使って聖火を点火」など楽しく学べる工夫があります。また、「山中会社」という児童が主体的に活動する仕組みがあります。そして、様々な活動をサポートする保護者や教職員が積極的であり、地域や団体と連携する支援体制がすばらしい。実体験を通してたくさんの子どもたちが笑顔になる活動を評価しました。

—— 株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長 高林 慎享

受賞者コメント

この度は低炭素杯2019ファイナリストへの選出、そして最優秀次世代賞をいただき、誠にありがとうございました。都市部の限られた自然環境の中での活動ですが、SDGs達成を担う次世代を育成する上で「楽しく美味しく自然に親しむ」をモットーに品川コミュニティ・スクールの枠組みで継続性と子どもたちの自主性を育む活動を行っています。活動10周年の節目を迎え、これまでの活動について評価いただいたことに、コミュニティ・スクールに関わる教職員・保護者、地域の方々には大いに励みになります。今回の受賞を機にさらに活動をブラッシュアップしていきたいと思います。本当にありがとうございました!



ファイナリスト紹介

企業・自治体部門 オルタナ最優秀ストーリー賞

再生可能エネルギーを活用して 地方から新産業を日本・世界に発信

株式会社エナテクスファーム

〒689-2103 鳥取県東伯郡北栄町田井651-1

0858-36-3633 <http://www.enatex.co.jp>

最優秀ストーリー賞

「オルタナ」への
記事掲載と冊子提供

alterna



全国が抱える荒廃農地対策、特に山間部の高齢化、後継者不足は深刻な課題。この課題に対しマイナス思考ではなく、安い土地・広い農地に着目。自然エネルギーは全国一律とし、風力・太陽光を中心に関連機関と連携、共同研究、実証実験、モデル事業創造に取り組む。特に、ソーラーシェアリングで都市屋上緑化で注目される常緑キリンソウの苗栽培と、水田での追尾型太陽光パネルの下部での稻作。この実績を日本・世界に発信。



審査コメント

株式会社エナテクスファームさんは、「自然エネルギーの推進」と、「耕作放棄地問題」という2つの社会課題を同時に解決するために尽力されているところに大変感銘を受けました。SDGs(持続可能な開発目標)では、社会課題の解決を起点にしたビジネス創出「アウトサイドイン」が推奨されており、この事例はまさに「アウトサイドイン」であると思いました。「ソーラーシェアリング」で太陽光パネルと作物栽培を組み合わせ、土地の収益性を高められようとする試みは評価に値するとともに、「キリンソウ」という、一部の県では絶滅危惧種に指定されている植物を栽培していることも印象的でした。

—— 株式会社オルタナ 代表取締役 編集長 森 摂

受賞者コメント

オルタナ最優秀ストーリー賞を受賞し、関係者で祝杯を挙げました。鳥取県の小さな企業でも、地に足の着いた実践の積み重ねで、その志が日本・世界に発信できる可能性を確信するとともに、評価していただいた事に感謝します。都市緑化によるCO₂削減と全国の荒廃農地を蘇らせる志は、関係者の理解と協力なしでは実現できない試みです。いまこそ、世界経済成長のトップを経験した日本が、経済活動のみならず次の世代へ向けたエネルギーと技術のあり方を世界に発信し、持続可能な地球モデルを示す時です。弊社の企業理念である「私たちの『エネルギーと技術』はいきいき次代のために」を柱に、この受賞を契機として一層の努力をしてまいります。感謝。



市民部門

気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞

海の森を未来に届けるプロジェクト ～海の資源を無駄なく使う～

一般社団法人海っ子の森

〒514-2304 三重県津市安濃町太田1603-29
☎ 090-6597-0141 <http://www.umikko.jp/>

最優秀市民・学校エコ活動賞

気象キャスターによる
出前講座の実施



私達の食生活で大量のゴミとして処分されている海産生物の骨や貝殻、また、海中で異常増殖した侵略的外来種は、利活用されること無くゴミとなっています。本プロジェクトは、「海の資源(生きものたちの死)を無駄なく利用」を図るため、貝殻廃棄物や外来種を農業・畜産業に繋ぐ活動をしています。秋には「収穫祭」としてプロジェクト圃場で収穫された農産物や海の恩恵による交流会を開催しています。



審査コメント

地元の資源を有効利用している活動は沢山ありますが、海っ子の森の活動は、その地域だけに留まらず山梨の畑に運ばれワイン作りに活用されています。「美味しいブドウは海の匂いがする」というプレゼンの言葉が耳に残りました。活動が地元の海中だけにとどまらず、海から他県の山へ畑へ運ばれて肥料となって美味しいワインの元になる、ごみとして捨てられていた海産生物を美味しい農作物を育てるために有効利用する海と畑の連携、素晴らしいなと思います。秋の収穫祭には、農作物や海の恩恵による交流会もあるそうで、このような他地域を巻き込んだ活動、もっと広げて欲しいと願います。

—— NPO法人気象キャスターネットワーク 理事長 藤森 涼子

受賞者コメント

今回、エコ活動賞の評価を頂きメンバー一同、感謝とともに海の活動への更なる決意が芽生えました。発表では、長年続けてきた環境保全も一人一人の力で改善すると信じ努力してきましたが、漂着するゴミの量は毎年変わらず成果の見えない現実に落胆しかけていました。しかし、海の生物が私たちに新たな活動の楽しみのきっかけを作ってくれました。それが今回発表した海の資源を無駄なく使うことでした。活動に農業との連携が加わり問題解決の視点を変えることで活動が楽しく豊かになりました。今後も低炭素社会に向け活動ていきます。



ファイナリスト紹介



企業・自治体部門

審査委員特別賞

「CO₂ゼロ印刷」による脱炭素化の推進

株式会社大川印刷

〒245-0053 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2053
045-812-1131 <https://www.ohkawa-inc.co.jp/>

自社の印刷事業で使用される電気・水道・ガス・車両燃料から排出される年間のCO₂を算出。政府のJ-クレジットによりそれら全量を予めオフセットした上で事業活動を行う「CO₂ゼロ印刷」を推進。それにより顧客はスコープ3における間接排出量の削減を実現、PRできるようにしている。また製造される印刷物全体の7割を石油不使用のインキで、3割をFSC森林認証紙で製造、高いレベルで環境印刷を推進している。



審査コメント

「低炭素」のみならず、CO₂ゼロの「脱炭素」と大きな目標を掲げ、かつ、バックキャスティング的な思考で、現状把握からJ-クレジットなどの手法、環境印刷まで対応策をしっかり考え実践していることがわかり、目の取組ではなく、印刷業界をリードする大変素晴らしい取り組みです。また、「脱炭素」を目指す姿勢がプレゼンターであった社長の言葉からもよく伝わり、企業としての真剣な姿勢に感銘を受けました。印刷業界をけん引する立場でリードしていただけたらと思います。

—— 審査委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は審査委員特別賞をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。弊社は長年、本業を通じて社会課題を考える印刷会社として活動して参りました。それら活動の最新の取組として、今回ご評価いただいた「ゼロカーボンプリント」の取組を発表させていただきました。2016年からスタートしたこの取組は、残念ながらまだ社会からの認知や広がりは十分とは言えません。今回、このような場をいただき、社会に向けて発信できたことは大変意義のあることと感じています。同様の取組が社会全体に広がっていくことで、低炭素社会、持続可能な社会につながるものと信じ、これからも従業員一同活動して参ります。この度はありがとうございました。



学生部門

マクドナルドオーディエンス賞

またお前らか?泥だらけでCO₂削減 TOKIWA DORO隊

常磐大学松原哲哉ゼミナール

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1

029-232-2511 https://twitter.com/tkw_hotaru

マクドナルドオーディエンス賞

ハンバーガー1年分



水戸のシンボル千波湖は、アオコの発生が後を絶たず、噴水や導水などの公共事業も抜本対策には至っていなかった。そこで立ち上がったのが常磐大学松原ゼミ。水生植物による自然浄化と生物多様性を目指し、2011年から市民ビオトープ事業を開始。若い力のDORO隊は、毎年200名の子供達が参加して植栽する基盤整備に奔走。8年間でガマ20,000本を植栽、14,600t/年のCO₂削減と湿地再生の効果を得た。



受賞者コメント

本ゼミでは、日頃から学生たちが地域と連携協力し、世界最大級の都市型自然公園である偕楽園公園内で環境整備とホタルの再生活動に取り組んでいます。今回の発表テーマとなった千波湖のビオトープ作りも、その一環として行ってきたものです。これら一連の活動を通じ、地域の貴重な自然環境を子供達と一緒に改善していく喜びを体験できたことが、今回の栄えある受賞に繋がったように思います。発表の前日から、三十人以上のネットワークの仲間たちが泊まり込みで応援に駆けつけてくれました。また審査終了後の懇親会では、出場した人たちと新たな交流を結ぶこともできました。今回の低炭素杯で手にすることことができた、もう一つの大きな宝です。



ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

持続可能な未来の環境を考えるあかしや環境学習

京都市立朱雀第四小学校

〒604-8482 京都府京都市中京区西ノ京笠殿町164

☎ 075-841-3204 <http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103305>

校舎・校庭を生かした環境教育を行っている。特に地球温暖化防止や省エネルギーをテーマに4年生「グリーンUPプロジェクト」、5年生「アイデア光る省エネ大作戦」、6年生「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」で学習している。そしてエコフォーラムを2月に行い、発信している。また、毎月16日を「DO YOU KYOTO?デー」(環境にいいことしていますか?)として、エネルギー保全の意識を高めている。



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

地球を守れ！環境防えい隊

三豊市立麻小学校

〒767-0014 香川県三豊市高瀬町上麻3868番地

☎ 0875-74-6237 <http://edu.city.mitoyo.lg.jp/asa/>

「地球を守れ！環境防えい隊」は、昨年度、省エネ活動の中心となっている4年生が学習発表会で地域や保護者の方に地球温暖化防止を呼びかけた劇のタイトルです。4年生は、総合的な学習の時間などで地球温暖化の現状を学び、自分たちにできることとして、アイデアを出し合い、節水や節電、ごみ削減などの省エネ活動に取り組んでいます。今では、省エネ活動が全校生に広がっています。





市民部門 優秀賞

野心的な目標提起と丁寧な会員支援で、脱炭素化の取り組みを加速

日本生活協同組合連合会

〒150-8931 東京都渋谷区渋谷3丁目29番8号コーププラザ

☎ 03-5778-8110 <https://jccu.coop/activity/eco/>

脱炭素化の重要性は理解するものの、現場をもたない連合会（業界団体）が果たせる役割は少ないと思われがちです。そうしたなか日本生活協同組合連合会は、「持続可能な社会の実現」を理念に掲げる生協の連合会として、パリ協定など国際水準をふまえた温室効果ガス削減計画の策定を会員生協へ提起し、あわせてマニュアルの提供等を通じた細やかな支援を行うことで、生協全体での温室効果ガス削減の取り組みを推進してきました。



市民部門 優秀賞

ゴミを拾う人はごみを捨てない。自然環境を守るのは貴方だ!!

NPO法人秋田パドラーーズ

〒010-0921 秋田県秋田市大町1-2-7

☎ 018-863-1166 <http://www.cna.ne.jp/~akita-pa/index.asp>

カヌー体験による自然環境保全活動とクリーンアップを通した脱炭素3Rリサイクル社会の実現、各種イベント開催による地域活性化に取り組んでいます。①クリーンアップ103回、参加人数7485人、回収ゴミは69.8t。②現状を知るための自然観察会139回、参加人数3585人③学校講座や啓蒙活動が85回、参加人数3609人④民間企業、行政からの要請イベントが498回、参加人数が16042人





▶ ファイナリスト紹介



優秀賞

WEショップ(リサイクルショップ)を通じた資源循環活動

NPO法人WE21ジャパン

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町70番 土居ビル6階

☎ 045-264-9390 <http://www.we21japan.org>

54の店舗で地域の市民から衣類や雑貨の寄付品をいただき、多くのボランティアの協力を得ながら販売し、売上的一部分を国内外の支援金に充てている。リメイク講座も盛んで廃棄量の減量に寄与している。ショップで天ぷら油や携帯電話の回収も実施し、再資源化を図っている。拠点のある強みを生かし、フードドライブの取り組みも検討している。



優秀賞

化石燃料に頼らない水素社会実現へ向けた実践的な環境教育

沼津工業高等専門学校と静岡県立工業高等学校の共同研究委員会

〒410-0822 静岡県沼津市下香貫八重129-1

☎ 055-928-7101 <https://sites.google.com/site/nencareco/home>

燃料電池に関する共同研究を推進し、小型燃料電池を動力源とするエコランカーの開発を行った。この成果を受けた県内の工業高校がそれぞれ開発し、日本初となる燃料電池自動車エコラン大会を開催し、水素社会実現へ向けた実践的なものづくり教育の成果を広く共有した。並行して、児童生徒へ向けた燃料電池体験教室を開催することで、地球環境保護に関する普及啓発活動を行っている。





企業・自治体部門 優秀賞

AZEMSプロジェクト

羽村市

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘五丁目2番地1

☎ 042-555-1111 <http://www.city.hamura.tokyo.jp/0000008579.html>

市域の地球温暖化防止施策の運輸部門対策であるAZEMSプロジェクト。市民のQOLの向上と、都市部の限られた空間という特性に適したスマート交通システムを構築していくことで、自動車交通のゼロ・カーボン化に取り組んでいます。中核となるAZEMSは、太陽光の電力のみによるコミュニティバス「電気バスはむらん」と一般のEVによるCO₂フリー走行を行っています。



企業・自治体部門 優秀賞

地域で自立する民間木質バイオマス熱供給事業

もりもりバイオマス株式会社

〒910-4105 福井県あわら市舟津26-8-1

☎ 0776-50-2857 <http://morimori-biomass.jp/>

持続可能な林業経営と再エネ利用：株主である坂井森林組合が地域から搬出する未利用間伐材C材を有効利用し山主への還元を増やし森林経営を安定・持続させる。旅館ホテルでは木質バイオマス熱活用によりA重油燃焼を削減し、同時に地域経済循環を活性化する。

持続可能な民間による地域熱供給事業：純粋に民間資本で経済的意味を重視する経営により、コストダウンを実現し、熱販売者と熱購入者のWin-Winを実現。





ファイナリスト紹介



企業・自治体部門

優秀賞

環境と経済の好循環を目指して～結の森プロジェクト～

コクヨ株式会社

〒537-8686 大阪府大阪市東成区大今里南6-1-1

☎ 06-6973-9387 <http://www.kokuyo.co.jp/csr/yui/>

2006年から環境活動の一環としてスタートした「コクヨ-四万十・結の森プロジェクト」では、高知県の四万十町森林組合をはじめとした地元の方々との協働で、人工林の適切な森林管理(間伐活動)を実施することによって森林の荒廃を防ぐとともに、そこで採れた間伐材の有効活用を促進することによって地元の経済を活性化させる、「環境と経済の好循環」を目指している。



企業・自治体部門

優秀賞

富士通グループ環境教育プログラム

富士通株式会社 川崎工場

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

☎ 044-754-8976 <http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/index.html>

富士通グループは、環境社会貢献活動の基本方針として「地域社会と連携した生物多様性保全」、「地球と社会に貢献する人材の育成(人づくり)」、「環境保全に向けた新たな価値の共創」、およびICTの力で、持続可能で豊かな社会の実現に向けて、環境社会貢献活動を通して地域社会に貢献することとしている。川崎工場では、未来を担う子供達に学びの機会を提供するため、小中学校を対象に環境教育を実施している。





企業・自治体部門 優秀賞

高い付加価値を持つ高効率モータの開発

草津電機株式会社

〒525-8501 滋賀県草津市東草津二丁目3番38号

☎ 077-563-5115 <http://www.kusatsu.jp>

当社はこれまで事業の一環として低炭素化活動を行ってまいりました。しかし、それに加えて本業で低炭素化に寄与できることが必要であると考え、主力製品である小型モーター効率化の開発に取り組んできました。低炭素社会を作るという社会ニーズに貢献する為、高効率モータを開発し、エネルギーロスの低減と二酸化炭素排出削減の実現を目指しました。



優秀賞盾を交流会で授与



17:30からの交流会に参加された受賞団体へ、小宮山実行委員長より、優秀賞盾が授与されました。





第11回川崎国際環境技術展とコラボ開催！

低炭素杯2019は、2月7日(木)、8日(金)において開催された「第11回川崎国際環境技術展」と、コラボ開催しました。

川崎国際環境技術展は、環境分野における優れた技術やノウハウを川崎から国内外へ発信し、出展企業・団体と国内外とのビジネスマッチングの場を提供する目的で開催されました。

Eco Tech Fair 2019
kawasaki



低炭素杯ビレッジ

「川崎国際環境技術展」の開催に合わせて、2月7日(木)・8日(金)の両日、低炭素杯を紹介する展示ブース「低炭素杯ビレッジ」を展開しました。「低炭素杯2019」のご案内とともに、低炭素杯にご協力いただいている各企業・団体様の環境・CSR、SDGs等への取り組みなどをご紹介しました。また、小学生向けのワークショップも開催し、多くの方々にご来場いただきました。



高尾の森自然学校（運営：一般財団法人セブン-イレブン記念財団）より、間伐材のご提供を頂き、オリジナルコースターを作る小学生向けのワークショップを行いました。

川崎国際環境技術展実行委員会事務局より、コメントが届きました！

川崎市はかつて公害問題で苦しましたが、企業・市民・行政それが粘り強く環境改善に取り組んだ結果、青空ときれいな川や海を取り戻してまいりました。そして現在では環境と経済が調和する「環境先進都市」として高い評価をいただいております。

今回、同時開催した川崎国際環境技術展は2009年から行われ、川崎市をはじめ日本国内や海外から優れた環境技術をもつ企業や団体が出展する展示会です。今回は同じ環境に関するイベント同士、協力しましょう！ということで、川崎にお越しいただき、初めて同じ会場で開催させていただきました。当日は低炭素杯からも御出展いただいたほか、お互いのイベントをPRしたり、来場者が双方の会場を自由に行き来できるようにするなど、同時開催ならではの協力体制が取れました！



ファイナリストの声

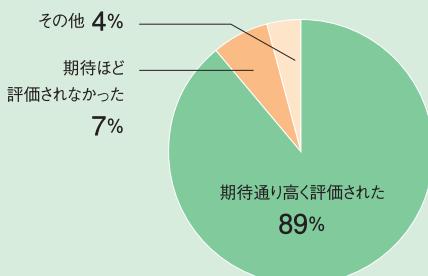
アンケート調査概要

対象者：ファイナリスト28団体

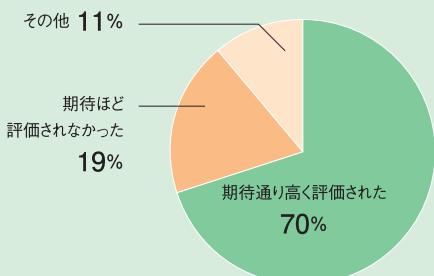
回答数：27団体

内 容：応募から、「低炭素杯2019」当日のプレゼン発表までの関わりの中で、各問に対しご回答いただきました。(一部抜粋)

Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは 内部でどのように評価されましたか



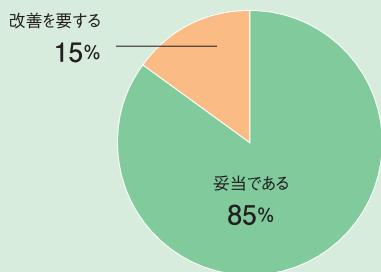
Q. 貴団体がファイナリストに選ばれたことは 周囲でどのように評価されましたか



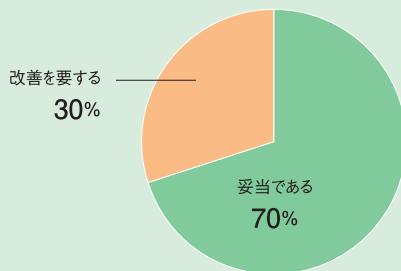
Q. 低炭素杯当日までの提出資料、 マニュアル等の内容の分かりやすさについて



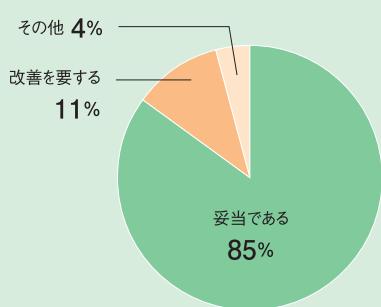
Q. プrezen(発表)の演出ルールについて (時間、音楽、会場の制約など)



Q. 低炭素杯の開催曜日(平日)について



Q. プログラム構成について



Q. 今回の低炭素杯の出場は、 貴団体の今後に役立つと思われますか

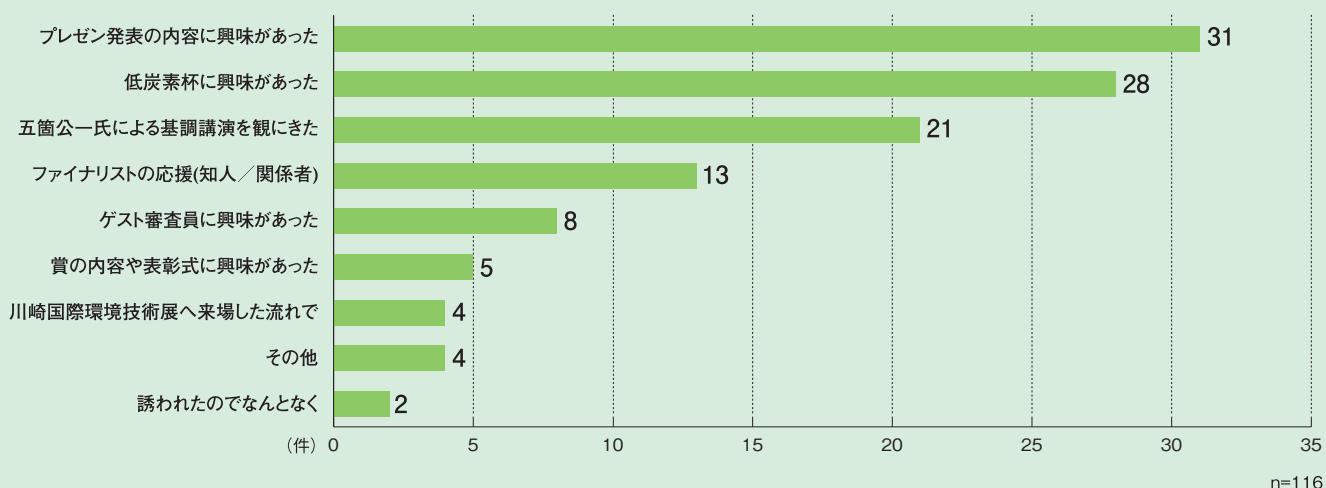


ファイナリストの皆さま
ご協力ありがとうございました!

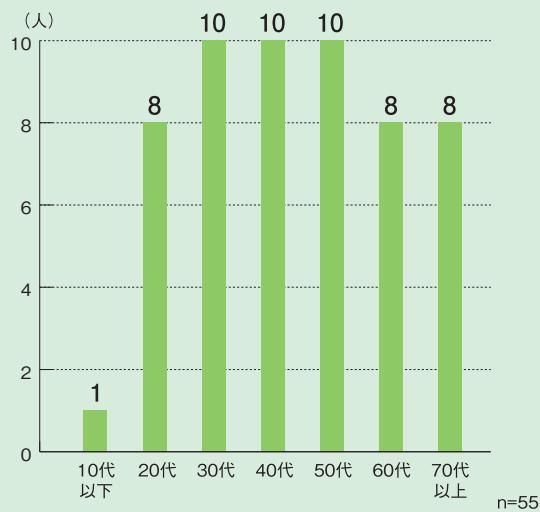


来場者の声

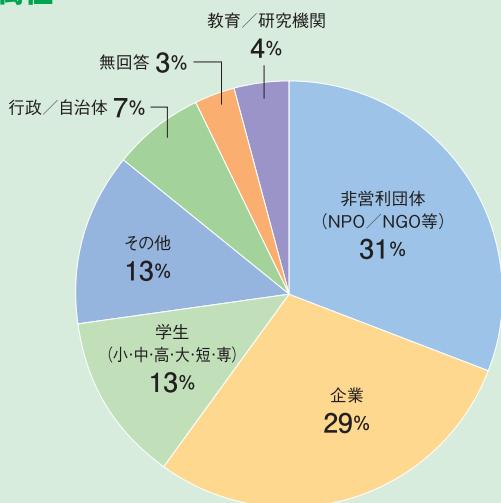
来場目的(複数回答)



年代



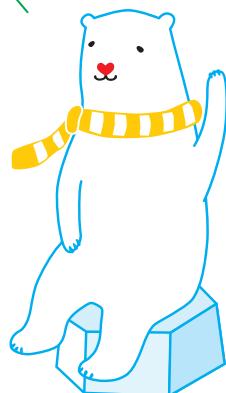
属性



感想

- とてもおもしろかったです。
- 素晴らしい発表でした。自社も頑張ります。
- 五箇先生のお話しが、さいこうだった。あとたくさんのこともしました。(小学生男子)
- 子供が五箇先生のお話を聞きたい!(小3)と強くお願いされまして、学校をお休みして連れてきました。とても内容が素晴らしくPTAでも本・DVDの募金はできそうだな…と思い早速お願いしてみます!
- 全体的な演出やスタッフの方の細かな配慮が素晴らしかったです。地域センター職員ですがファイナリストに残られた方から「このような発表の場を頂けてとても感謝しています。素晴らしい体験でした。」との感謝の言葉を頂きました。今後の活動の励みになります。本当にありがとうございました。
- 会場が広すぎ。休憩なく全部観るのが大変。4分はあつという間。もっと詳しく知りたくなりました。
- スケジュールにもう少し余裕があるとなお良いと思います。
- 各々のプレゼンに対する質問コーナーがあればよいと思いました。

アンケートへのご協力
ありがとうございました!





ゲスト審査員の声

ゲスト審査員とは？

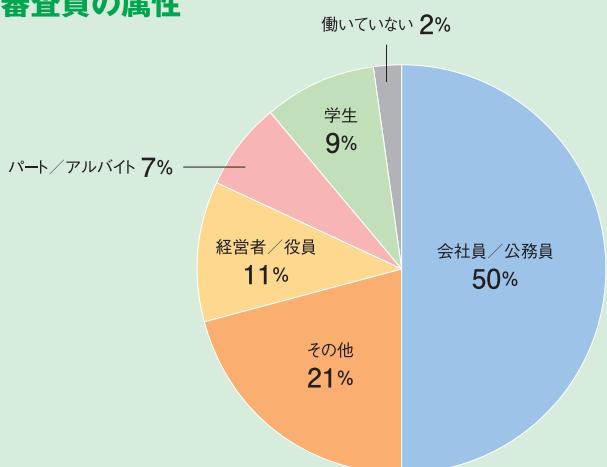
より多くの方に、全国のトップランナーの取り組みを知っていただくため、観客の視点から「地球温暖化防止のための活動」を評価していただこうという試みの元、温暖化対策に係る専門の方々をはじめ、広く一般の方を対象に「ゲスト審査員」をホームページにて公募しました。

ゲスト審査員は、ファイナリスト28団体すべてのプレゼンテーション発表を観覧し、最も感銘を受けた2団体へ投票することができます。当日は多くの方にゲスト審査員として審査いただき、投票の結果「オーディエンス賞」2団体が決定いたしました。

審査方法

- ・ファイナリスト28団体すべてを見て、審査をする。
- ・全団体の中から、“地球温暖化防止のための活動”として最も感銘を受けた2団体を選び投票する。
- ・得票数の結果、上位2団体にオーディエンス賞を授与する。

ゲスト審査員の属性



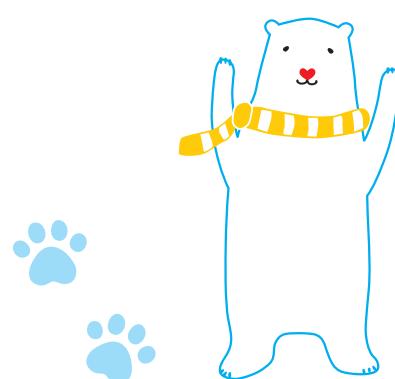
n=48

ゲスト審査員票で選ばれた「オーディエンス賞」！～ランキング5位までの団体ご紹介～

順位	団体	所在地
1	常盤大学松原哲哉ゼミナール	茨城県
2	宮城県農業高等学校	宮城県
3	株式会社エナテクスファーム	鳥取県
4	姫島エコツーリズム推進協議会 有田川町	大分県 和歌山県
5	佐賀大学教育学部付属特別支援学校「team! 緑の風吹く」	佐賀県

感想

- ・大変良かったです。
- ・年々レベルの高い発表となっている。
- ・進行、講演、発表すべてすばらしい内容でした。
- ・広がり、つながり、協働していく団体の活動はとても良いと思いました。
地域の個性も出ていて、楽しませてくれました。生物多様性、ダニの話も。
- ・会場はとても良かった。司会進行も良かった。昼食を摂るのに席があまりなく戸外で食べて寒かった。
- ・スケジュールを詰めすぎだと思いました。
- ・いつまでもこの活動を続けてください。





低炭素杯2019 広報掲載一覧

「低炭素杯2019」ではエントリー募集から、開催結果まで、全国的に幅広く記事を取り上げていただきました。

本紙ではその内の、ごく一部を抜粋してご紹介いたします。

2018年

- 7月～ WEBサイト 株式会社タカラトミー ホームページ
7月～ WEBサイト (一社)愛知県産業廃棄物協会 ホームページ
7月～ WEBサイト 岩手県久慈市 ホームページ
7月～ WEBサイト 鳥取県 ホームページ
7月 17日 WEBサイト 川崎市 ホームページ
7月 17日 WEBサイト PRTIMES 配信
7月 17日 WEBサイト Asahi Shinbun Digital 企業リリース
7月 20日 WEBサイト 環境☆ナビ北海道 ホームページ
7月 20日 WEBサイト NPO法人エコネット近畿 ホームページ
7月 20日 WEBサイト EVENT MARKETING News
7月 23日 WEBサイト こどもエコクラブ ホームページ
7月 23日 WEBサイト 公益社団法人全国産業資源循環連合会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト 認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 ホームページ
7月 23日 WEBサイト 公益財団法人栃木県産業資源循環協会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト (一社)茨城県産業資源循環協会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト (一社)和歌山県産業資源循環協会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト (一社)千葉県産業資源循環協会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト (一社)山口県産業廃棄物協会 ホームページ
7月 23日 WEBサイト 公益財団法人大阪府産業資源循環協会 ホームページ
7月 24日 WEBサイト (一社)新潟県産業廃棄物協会 ホームページ
7月 24日 WEBサイト BLUE SHIP ブログ
7月 24日 WEBサイト (一社)えひめ産業廃棄物協会 ホームページ
7月 24日 WEBサイト 愛媛県地球温暖化防止活動推進センター ホームページ
7月 25日 WEBサイト (一社)高知県産業廃棄物協会 ホームページ
7月 26日 WEBサイト (一社)佐賀県産業資源循環協会 ホームページ
7月 27日 WEBサイト 山梨県地球温暖化防止活動推進センター ホームページ
7月 27日 メルマガ 国土交通省下水道部メールマガジン
7月 31日 WEBサイト 東北地方ESD活動支援センター ホームページ
8月～ WEBサイト いわてわんこ節電所 ホームページ
8月～ WEBサイト BLUE SHIP ホームページ
8月～ WEBサイト 川崎国際環境技術展 ホームページ
8月 1日 WEBサイト 東北環境パートナーシップオフィス ホームページ
8月 5日 WEBサイト 日本教育ジャーナル ホームページ
8月 5日 冊子 日本教育ジャーナル
8月 6日 WEBサイト 神奈川県産業資源循環協会 ホームページ
8月 7日 メルマガ alterna
8月 8日 新聞 日本下水道新聞
8月 9日 新聞 滋賀報知新聞
8月 10日 WEBサイト 印刷業界ニュース NEWPRINET
8月 16日 メルマガ 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) メールマガジン
12月～ WEBサイト 住宅建材情報局 ホームページ
12月～ WEBサイト 相模原市立環境情報センター ホームページ
12月～ WEBサイト いわてわんこ節電所ニュース ホームページ
12月17日 WEBサイト 茨城県地球温暖化防止活動推進センター ホームページ
12月28日 WEBサイト NPO法人環境パートナーシップ ホームページ

News Release
KOKUYO
発表機関名各社
2019年2月25日 No.1907
コクヨ株式会社
「緑の森プロジェクト」が低炭素杯2019 優秀賞を受賞

「アート作品企画部門」(大賞・准賞・特別賞・最優秀賞)、当社にて実施した「緑の森プロジェクト」が低炭素杯2019 優秀賞を受賞いたしました。

「緑の森プロジェクト」は、全国の小中学校一年生で「緑の森プロジェクト」実施校で実施するところより、既存の「緑の森」(バラや木や草等)に新たに緑を増やす、既存の緑を育むなどの取り組み。学校運営のための森林の整備や、一歩踏み出したら森林の緑が広がる「森林アート」(絵画)、林民が森林日記で森林を語る「森林日記」など、その延長で「緑の森アート」(絵画)の緑が豊かで美しい森林の絵などを評議いたしました。

低炭素杯2019実行委員会では、「全国の森林のネットワーク団体の中心」として審査を実施し、2019年の総合的大賞として「緑の森プロジェクト」が選ばれました。

写真(左) 優秀賞受賞者(左端)と、(右) プレゼンテーションの様子

コクヨ株式会社ニュースリリース(2月25日)

低炭素杯2019にて「最優秀エコチャーミング賞」に
広島市立広島工業高等学校
広島市エグリーン・プロジェクトを選出

ユニー・チャーム株式会社本社:東京都港区、代表取締役社長執行役員:高橋豊久は、
次世代の「地球環境問題」に対する意識向上と、環境問題に対する理解を深めることを目的として、『低炭素杯2019』において、『広島市立広島工業高等学校』、『広島市エグリーン・プロジェクト』を当社の「最優秀エコチャーミング賞」に選出し、2019年2月8日(月)開催にて表彰しました。

ユニー・チャーム株式会社WEBサイト(2月26日)

日本WPAの活動 - その他の活動

北陸の野生生物活動が、花園の健康・環境・食を改善し、低炭素社会に貢献する。
— 佐賀県合戦島GAIAHSプロジェクトの概要

2019年3月 4日

日本WPAが、依然農杯2019で「日本WPA最優秀米俵へのはなき農園」で講評した「佐賀県合戦島のGAIAHSプロジェクト」のメンバーと幹事を紹介します。そこで、国で初めて栽培され始めた2013年、佐賀県合戦島の基幹生が、「どうしよう! 未来のうらうら農園を!」地域連携農業開拓プロジェクトなどで、佐渡島の環境改善活動をスタートした。

プロジェクトメンバー
毎年、「健康・加工有利」の2年生がこのプロジェクトを引き継いでいる。佐賀県合戦島の基幹生と、依然農杯2019でプレゼンした2名との会話を聞いた。プロジェクトは、当社から佐渡島農業振興課プロジェクトの中で、基幹生にふさわしい活動を経験している。

日本WPAのWEBサイト(3月4日)

尼崎・成良中ホイチャー隊 あす「低炭素杯」出場
温暖化防止日本一狙う
水質改善菜種で燃料・活動発表

神戸新聞(2月7日)



2019年

1月～	新聞	大分合同新聞
1月 22日	新聞	茨城新聞
1月 27日	新聞	神奈川新聞
1月 31日	WEBサイト	レンゴー株式会社 ホームページ
2月 7日	新聞	岩手日報
2月 7日	新聞	神戸新聞
2月 8日	WEBサイト	逆川こどもエコクラブ ホームページ
2月 8日	WEBサイト	こどもエコクラブ ホームページ
2月 8日	WEBサイト	上毛新聞 ホームページ
2月 8日	WEBサイト	福島民報 ホームページ
2月 8日	WEBサイト	デイリー ホームページ
2月 8日	WEBサイト	京都新聞 ホームページ
2月 8日	WEBサイト	徳島新聞 ホームページ
2月 9日	新聞	大分合同新聞
2月 9日	新聞	岩手日報
2月 9日	新聞	山形新聞
2月 9日	新聞	福島民報
2月 9日	新聞	福島民友
2月 9日	新聞	茨城新聞
2月 9日	新聞	埼玉新聞
2月 9日	新聞	神奈川新聞
2月 9日	新聞	山梨日日新聞
2月 9日	新聞	静岡新聞
2月 9日	新聞	岐阜新聞
2月 9日	新聞	伊勢新聞
2月 9日	新聞	福井新聞
2月 9日	新聞	奈良新聞
2月 9日	新聞	中國新聞
2月 9日	新聞	日本海新聞
2月 9日	新聞	山陰中央新報
2月 9日	新聞	山口新聞
2月 9日	新聞	四国新聞
2月 9日	新聞	愛媛新聞

2月 9日	新聞	徳島新聞
2月 9日	新聞	西日本新聞
2月 9日	新聞	佐賀新聞
2月 9日	新聞	長崎新聞
2月 9日	新聞	大分合同新聞
2月 9日	新聞	宮崎日日新聞
2月 9日	新聞	南日本新聞
2月 9日	新聞	日本海新聞
2月 10日	新聞	琉球新報
2月 10日	WEBサイト	和歌山放送ニュース ホームページ
2月 12日	WEBサイト	印刷業界ニュース NEWPRINET
2月 12日	WEBサイト	鳥取県 ホームページ
2月 15日	新聞	山形新聞
2月 15日	WEBサイト	佐賀大学 ホームページ
2月 15日	WEBサイト	alterna ホームページ
2月 15日	WEBサイト	クールアースいばらき ホームページ
2月 16日	WEBサイト	ストップ温暖化センターみやぎ ホームページ
2月 20日	新聞	有田タイムス
2月 21日	新聞	日刊建設工業新聞
2月 21日	新聞	和歌山特報
2月 25日	WEBサイト	コクヨ株式会社 ホームページ
2月 26日	WEBサイト	ユニ・チャーム株式会社 ホームページ
3月 4日	WEBサイト	一般社団法人日本WPA ホームページ



岩手日報(2月9日)

低炭素杯
鶴翔高が大臣賞金賞
廃棄ウニで循環型農業

全国から選ばれた「羽島高校」(阿久根町)な
る企業も団体も、金賞に輝いた。各賞の受賞者
が環境意識向上に向け取り組みを発表す
る低炭素賞2019が、日川市の「カ
ルシングかわさき」で開
催された。姫島吉三ツリズム
で歌う農業名曲指揮
不動産協会(大分
県小鹿村の電気自動車
EV)を活用した事例が環
境賞2019で、東
北のリサイクルで、
南日本新聞(2月9日)

南日本新聞(2月9日)



徳島新聞(2月9日)



有田タイムス(2月20日)



大分合同新聞(2月9日)



山形新聞(2月15日)

他、メルマガ、Facebook、twitter、口コミ、ブログ等で
たくさんの方に広報協力いただきました。
本当にありがとうございました。





ご協力いただいたみなさまのご紹介

アンバサダー専用ロゴ

“一般アンバサダー”として広報面で活躍いただきました!

これまで低炭素杯に出場したことのある方の中から、「低炭素杯“愛”」にあふれ、自身の活動フィールドを生かしながら「低炭素杯」を草の根的に広めることを目的に、2017年より低炭素杯アンバサダー制度を実施しています。現在5名の方に、低炭素杯アンバサダーとして活躍いただいています!



● 元 栃木農業高等学校 教諭 小森 芳次 様

低炭素杯は、世代を超えて地域性豊かなイノベーション発掘の場であると思います。栃木農業高校は、低炭素杯2012.2013の大会にて2年連続環境大臣賞グランプリを受賞させていただきました。高校生が地域復興と環境保全を掲げ「農村が元気になれば日本の原風景がよみがえる」を合言葉に取り組みました。生徒にとって全国大会で得たかけがえのない経験は、最高の思い出となり、卒業後社会人として「生きる力」を育む原動力となっています。



● FMおとくに 事務局長 木本 直樹 様

低炭素社会の実現に向けた活動は継続が必要で、いかに活動を次世代に引き継ぐかが課題です。低炭素杯の前身、「ストップ温暖化一村一品大作戦」に商店街の自作LEDランプで出場した2010年。そのとき発表した少年は大学生になった今は商店街の活動を手伝っています。低炭素杯2019の発表活動の中にもたくさんの子どもたち、若者の関りがありました。数年後、活動を引き継いだ彼らが低炭素杯に出場することがあればいいですね。



● 佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部長 橋本 翼 様

佐賀市下水浄化センターは、暮らしから出る「下水」を資源として捉えて発電や農業利用等に繋げるなど、低炭素な下水処理の実現に努めています。低炭素杯を通じ、環境改善への熱い思いを持った方々と出会うことができ、嬉しく思っています。ここで頂いたノウハウや刺激も活力にさせていただき、あって当たり前の存在になりつつある下水道が低炭素社会構築の一翼を担う、そのような取り組みを今後とも推進したいと考えています。



● フайнモータースクール 営業企画部 広報チームチーフ 齊藤 千絵 様

低炭素杯のゆるっとした温かい雰囲気が好きです。私は2016年に低炭素杯に出場し、エコドライブを様々な世代に伝える発表で、文部科学大臣賞を頂きました。その後はゲスト審査員として参加しています。皆さんの発表は、全国から選ばれた人達だけあって、いつも新鮮で驚かされます。世の中にまだ知られていない取り組みも沢山あって、まさに宝箱のような大会だと思います。そんな低炭素杯をもっと多くの人に知ってもらいたいです。



● フайнモータースクール 営業企画部 広報チームリーダー 福田 慎太郎 様

アットホームで温かみのある私の大好きな低炭素杯。2014の初出場で「これから免許を取る教習生にエコドライブを教えている」ことを発表し、3度目の正直で文部科学大臣賞を頂きました。その後もゲスト審査員や運営にも少し携わさせていただき、今回はアンバサダーもやらせていただけて感激しています。この機会を通じて、いつでも、どこでも誰にでも簡単にできる“エコドライブ”を実践する仲間を増やしていくべきだと思います。

“協力団体”として広報面・当日のスタッフとしてもご協力いただきました!

こどもエコクラブ全国事務局
(公益財団法人 日本環境協会)



こどもエコクラブとは、幼稚から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブで、現在約1,800クラブ、10万人を超える子どもたちが全国で活動しています。

「ジュニア・キッズ部門」への子供たちの応募を促進するべく、こどもエコクラブに協力いただき、登録クラブにエントリー募集の声掛けをしていただきました。今回は、ファイナリストの中で3団体がこどもエコクラブの関係/登録団体でした!

自動車教習所
ファインモータースクール



ファインモータースクールは、低炭素杯に何度も出場、受賞している常連団体で、免許取得の際に自然とエコドライブが身につく「楽エコ教習」を基軸に、小学校でのエコドライブ寸劇や、自治体職員向けのエコドライブ指導者養成など、多様な取り組みを通じて「エコドライブ」の普及を行う自動車教習所です。今年は当日に、受付スタッフとして、事務局と一緒に汗を流していただきました!



低炭素杯への寄付にご協力いただきました

全国各地の多種多様な方々の優れた取組を広く伝え、交流・連携を図る場である「低炭素杯」は、この9年間に全国から数千団体にご応募いただき、計330団体を超えるファイナリストがステージ上で自らの取り組みを発表しています。

参加者同士の新たな共同事業展開という嬉しい成果も生まれております。この動きをさらに進化させ、「低炭素杯」を持続して開催していく為には、想いに賛同・共感してくださる皆様のサポートが必要です。

今年度は以下の皆様方にご寄付をいただきました。

ありがとうございました!



～個人寄付をいただいたみなさま～

● 小宮山 宏 様

● 田畠 久義 様

(株式会社 久栄社 取締役会長)

● 野口 正一 様

● 倉持 一彦 様

(倉持産業株式会社 代表取締役)

計 450,000円

～古本募金に参加いただいた皆様～

このたび、低炭素杯では本やDVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄付できる、「古本募金(きしゃばん)」を実施し、以下の皆さまから古本募金でのご寄付をいただきました。(2019年3月25日現在)

● ストップ温暖化センターみやぎ 様

● 原田 沙樹 様

● 藤本 滋生 様

● 鳥取県地球温暖化防止活動推進センター 様

● 大分県地球温暖化防止活動推進センター 様

● 斎木 桃子 様

● 飯田 裕己 様

● 古谷 信一 様

● 櫻田 彩子 様

● 特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター 様

● 株式会社 津軽金山焼 様

● 他 4名 様

計 21,024円

皆様から頂いた協賛・寄付金はファイナリスト参加費用や、会場費等の運営資金に大切に使用させていただきました。
是非とも来年の「低炭素杯」開催のため、引き続きご支援をお待ちしております!

支援方法

■ 寄付する

寄付は3コースあり、コースによって特典が異なります。

以下、コースと口数を選び直接お支払いください。

5,000円／口コース

特典 ・報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付

10,000円／口コース

特典 ・報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
・次年度の低炭素杯交流会への招待(1名様まで)

20,000円／口コース

特典 ・報告書やウェブサイトにお名前を掲載、報告書の送付
・次年度の低炭素杯交流会への招待(2名様まで)

※交流会は、立食パーティー形式で、新たな出会いの場となっています。

※特典内容は、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0791958

ティタンソハイジムキョク

低炭素杯事務局

※口座名義の前に必ずお電話番号をご入力ください。

■ 古本募金で寄付する ~0円で寄付しよう~

皆様に負担いただく費用は0円です!

本を5冊以上集めて 検索と検索し、申し込みフォームに則って入力すれば手配完了です。ご希望の日程に本の集荷業者が参ります。





〈参考情報〉これまでの歩み



低炭素杯2018

- 開催日：2018年2月15日(木)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
岩手県立遠野緑峰高等学校(岩手県)
「ポップ和紙開発プロジェクト」
- 総エントリー数：1,170件
- ファイナリスト数：30件



低炭素杯2017

- 開催日：2017年2月16日(木)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
佐賀市上下水道局 下水プロジェクト推進部(佐賀県)
「昔に帰る未来型～佐賀市下水浄化センターを「宝を生む施設」に～」
- 総エントリー数：951件
- ファイナリスト数：26件



低炭素杯2016

- 開催日：2016年2月16日(火)・17日(水)
- 会場：日経ホール
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
しづおか未来エネルギー株式会社(静岡県)
「静岡発!! みんなで創る地域発電所」
- 総エントリー数：1,993件
- ファイナリスト数：38件



低炭素杯2015

- 開催日：2015年2月13日(金)・14日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
下川町(北海道)「地域資源“森林”を活用したエネルギー自給型小規模自治体モデルの構築
～誰もが暮らしたいまち、誰もが活力あるまち～」
- 総エントリー数：1,730件
- ファイナリスト数：39件



低炭素杯2014

- 開催日：2014年2月14日(金)・15日(土)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
株式会社ウジースーパー＆株式会社ウジエクリーンサービス(障害者特例子会社)(宮城県)
「『エコーガニックwithノーマライゼーション』食品スーパーが提案する環境ループ事業」
- 総エントリー数：1,620件
- ファイナリスト数：41件



低炭素杯2013

- 開催日：2013年2月16日(土)・17日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班(栃木県)
「麻の郷とちぎの環境資源を次世代に」
- 総エントリー数：1,371件
- ファイナリスト数：40件



低炭素杯2012

- 開催日：2012年2月18日(土)・19日(日)
- 会場：東京ビッグサイト国際展示場
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班(栃木県)
「守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り」
- 総エントリー数：108件
- ファイナリスト数：41件



低炭素杯2011

- 開催日：2011年2月5日(土)・6日(日)
- 会場：東京大学安田講堂
- 環境大臣賞グランプリ受賞団体：
環境NPOオフィス町内会(東京都)
「森の町内会(新たな仕組みによる干ばつ促進と森林のCO₂吸収)」
- 総エントリー数：70件
- ファイナリスト数：47件



一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長
長谷川 公一

低炭素杯2019、いかがでしたか。

パリ協定の成立に続いて、昨年のポーランドで開催されたCOP24では、パリ協定をどうやって守るのか、世界中が合意してルールブックがつくりました。気温上昇を2度以下に抑えるために、低炭素社会をつくるために、政府も自治体も、企業も学校も地域社会も、真剣な取り組みを加速しています。

今回は第11回川崎国際環境技術展とコラボする形で、川崎市のカルツツカワさきで開催いたしました。SDGs（持続可能な開発目標）の一環としての低炭素活動をアピールした団体や、環境大臣賞金賞の「みちのく屋台こんにゃく道場」（山形県）をはじめ、廃棄物の再資源化に取り組む活動が目立ちました。

グランプリに輝いた大分県の国東半島沖の姫島の小型電気自動車による島めぐりなどの取組みは、感動的でした。小さな自治体の地道ながら壮大なプロジェクトとしては、環境大臣賞金賞の和歌山県有田川町の水力発電によるエコプロジェクトも光っていました。

今年も、28団体のファイナリストのプレゼンテーションには、世界中の政治家や自治体リーダー、ビジネス・パーソン、若者へのヒントが充ち満ちていました。

低炭素杯 Low Carbon Cup という全国的なコンペティションはわが国だけです。すでに9回。前身の地球温暖化防止一品全国大会から数えると12回です。さまざまな環境関係のコンテストの先駆け的存在です。

日本が世界に誇る低炭素杯をいつまでも続けていきたいものです。

みなさまのご支援と、地域に根を下ろしたあなたの「低炭素ファースト」＝「地球ファースト」の取り組みをお待ちしています。



主 催 低炭素杯実行委員会

共 催



特別協賛



協 賛



一般社団法人 日本WPA
Japan Waterless Printing Corporate Association



損保ジャパン日本興亜環境財団



協 力



後 援



事 務 局

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)



低炭素杯事務局(【一社】地球温暖化防止全国ネット内)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階

TEL:03-6273-7785 FAX:03-5280-8100
<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>



この印刷物は、FSC®認証紙を使用し、
VOCを発生しない「UVエコインキ」を使い、
「水なし印刷」で印刷しています。
また、省資源化(フィルムレス)に繋がる
CTPにより製版しています。

